元ず

特別
へ12
5090
6

N12
5090
6

〈2001-059〉

うき船

[illegible]

[illegible]

[illegible]うき橋

うき船　参右三位[illegible]の参八十五歳[illegible]

九月[illegible]六歳[illegible]参の初てこと[illegible]

三月末三[illegible]

[illegible]　白文[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれて　三条えちぜんかた
年月いかばかりかはるらんとゆきすぎがたくおもひてよめる
業平朝臣
あひみてのこころ中にたえてより中にて業
なりけりとはかりしるべきものを　寛平御時
白菊の花しらぬ人の植ゑおきけるを　辰年
世にふるとかくれぬ人の見つるかな
つきのかげとまがへてぞ折る
中くらゐにてまかりなりて
ひ月をつかうまつりそらに
つきみる　元
ひこぼしの織つるて
ワヲのいろ河

おなじつかうまつりにて年ふる書けるを
ちまたにとりてこれを
ちとせとしてとくなれば
ひかりくれ
白菊の花
うつり　卯槌はじめ　卯杖と同じ
きとりて
きとりあはせの日
山吹
山吹はいとにしかぬ
しらえ人のうりに
やまのゐのいまとあるものを
なりて

忍ふるこれぬ以ノ云　堀河院百首恋歌泉侍北
サラシ井ノ本ノ下流ニ香れハ夜々サリシ蜂ハナケトモ
無忌かねてしく　中光武房かねてしのふと
大内記ちかノ恋　兼郎かゝ補とらめ行て兼之
いえしとゝねみゝ行之　うきさ無ゑすとしくし
多して中光風之老ニてしまれて　すろ縁
すつら之うへくしそぬ之思ところひ給之
のりちはいえ之をとすてしく　む月蛍暁之
つきそしすとひて
いえ此以てしと　言武比以てしとれ中ちもやす
言然し人彦て行すし以よし
やそしけまと　以へそしき

いろは伝うくを　行くしくてちりすの夢
太年とものりしわきノてはり　うきさ無歌安房之行
老して白氣すつきしノ之又云事応奉りし右中子女の太
気ちとえいしますと思すノ之給之又たつ子ち女のこり行と
宇流れいそり二年院のすとまうノ之又云ひらりし
太をまてしノとかノ心
行をを　腸宮さようしくすれかいのらとたさとは
こそ行せ行りおて至御之中元てうきさ無とのすれ　めり
うの本を知行かと禿　折し
ときけしえそりわらんを滝けし　うきさ無田成てしく
存山之行をまいんとえそ然えすし
又行ハ形志りしくく　又行ち無房のえひし初し

とらくし以ひらう御と
二葉ほと茂てきうし　然れと茂ききうひすし
ゝや石山まうれていれうとくりとえて
其葉もへと　まことは名と
世界の中ま宮流しとめてくく京九母のて人がうらし
られこうしらしてそうへうの堺まれてまとていそくと
けてすく三郎けりし　白宮のあまれうきき女はくし
（大御ときこつときり升なし女のとのすしと男さん
せうう之
ゝろ御しら人とも茂　中宮九方りんめの日と茂
ゝうてうゑさうし〳〵さくうううやきそう
御りり茂志うくうう　親族と

いうすの親族あうろんとききうふし
おそすう志うくき　ときうしきさと
すうめう　久家島　ゝうう茂家月と
大藏大輔　伊信と大同氏道定う志りとと
みうれてをわりうく　がも人く以ひらうと子ゆと
其の宮りん志うね　姜の乗とゆ命す御日浮兵郎
若とも八志て弁にもの市わうりてりく
叱ろく
ときうらんく　おそさ権もし　大えと　白文のへ
きけたり　中くさりくかうひのきめ切人し玉乱かうゆとし
帰りりし打し　白茂茂のうく三阿ときさめす
とさ九男茂もと　文の切と且給しとい以ひうう志給し

さかんとつくる　右きつ竹方とて今ころなりてそくそう
うち盆しへらし　竹くしうつりしらまけれゆんとも
うらくらし勤斎のすし
まうかひろきまし　宇治の文字に事そろ名にし
そらにも所を得て　女房もまわりてすりひろくても
みなさきまえせよしつまつてせうてまや
いまき今　かりのす
ときさき其には　そく人い　まわりて天のす
さくもし　右に舟所せらし　ひろの身を
久にけけ出かを所く　月見ころひのいらし
大阪のええさらりし　久喜見えかまとまりのとさ

我にて今くらひろく　ミなろとく　大事も知事揺ちりまし
よろり字へつりつるくる子
田ノ宗品
いまそれ人とく　之知にさそうりるへ成つまてに
とらし堂らけまて　墓なるまえ大きを所をさしくさ
ましだくりてまし如くらてそし堂をけりてヽ
よそへもまきひろ　いこと
よのたるひし又すりの年に　若は人とそれすし
若く人もひわ所やまいろくときも　おうろとも
まり字をしし薫香わら心に気やれえさ舟を人
ころ筆取りとかつかやし所をと白えの田所し
二まんき住二人　おや七ま又一人と　私大阿記之

世尊は弁て入給ふ　白雲は中宮へ借て入給ひし

ける二そ　月千京さん侗

今宵かぎりのことゝて　養の中に忍ひつゝひ給ひしと

見ゆる時白妾のうら手さつ弁て羽紗ひ給ひしれ

ねひえり給ひし

すゑすゑ人のさゝへ給へれ

おもやすのやま

かしこきと　寅不れよし又白雲れ嶽ゝ成て

いましくかりに分て　ふるさとも中宮の此いとゝ多う

ねりしけるし

たまゝの宗わかけるゝ人の府の此ともれ

うなし　たまさくの養妾此ともれさらし　たまゝ

月にうらみ

夕つゆこぼるゝ　出月なんてくの

明日にとし時　白妾の給ひと給ひそ給ひ

みゆきとて給ふ人と　ゝゝ苦すゝてつかり給ひ

庭かのを給ひされて　養の給ひゆ又ゝ有感

見る古宵　又養をのすゝてさのゝ給ひ入給

けりて竹ゑて　養の見へすゝて天りゝよりも文

名もみえて　宇治川ちよりおもゝ宮の人をそ絵

ふもとのきよし　こまりて　いまいま見きとして給ひ

うかり時の月夜と　さまての際は傍りゆゑ月の

ゝし然の月夜かきて　むま宮もし二月初く

もときよ　苦もし宮もれ路とゝてもり

名ありもえ人のくとうかきされやまことしもり

でひかえくし去年れ候しや
文こられりかり侍り　かなひてし気起ちさらりし
草おかりまいらせしまいりけり
こと文のかいすきしこそれ[illegible]しいふし
寿くての徳と[illegible]れてかくおかりし
行文のおもの手あをおかりし
てそれ宿てとうし
先[illegible]とありて[illegible]詩の事なと申さり
の是てまつりたれ人今[illegible]まいらせ
一歳のまゝにてきたりし一歳てうたふ[illegible]なり
白雲[illegible]の[illegible]生れて善次の年[illegible]
[illegible]ての[illegible]三度の光とぞ[illegible]白雲[illegible]

そのくちのし一稿にてや是又荘子し付代おぼ道りる
古人を続くことありて翫ぶべし
ござるいふれころりまでも　白雲[illegible]いて
其をかかる詩の作おかしけんとて
八洲[illegible]くさし[illegible]てさ
大内記武少輔[illegible]識[illegible]別[illegible]て
再てのりてそしわりの　宇治の橋てわらべさ[illegible]て
こと[illegible]とけ[illegible]の折[illegible]も[illegible]
之
あはれなる
秋の月
と[illegible]の[illegible]し
[illegible]てまいらせし[illegible]と
祝布日

三ろきうこらしも出てくり
耳ところ給ひし一ことし　哀てしきことも嘉のてんし給けむ
いそうりつらむ　時方とさし出てとられたりと見えてし
つべき文丸打ともわしく文をつゝまりてささるつくれと
思そのみつらし
さきてゆて
給へるを見て　御經のことひらくるとて三くとさる母の文えて
こそ給ひし
いとおのこうも所て　乳母の母とみきを待りし女房
すかね妻しし
久りきしけ身て　声のすまとみさやうはこて
半さこえて　ことおふえとやしくいこ給あかり

おぼえてこそ南なる右になりて　筋ものことを云ひかり
雨なきとい打ちとこそあれ
竿かりしるきの声になりけるたまるくをそ給
匂ふ宝修れところもとを待ちとものまし
まてわきにて文丸にて久い給ひ文字す給ひ文をかり
草のすく人るわりしわれ文とし欲わせ匂ひて路中給
（一身是）あまく思ひいのうろとうれ畢于嘉元元年
うとてろかり
なべてをおかりつるを　句ま文し
大をろしらうき丸　御経の以成之
私云　寛元元年の分ありてし出て　宣記とんう流とさいひ
彰雑訓記　みすゑ氏のしさとまよりてこひそ感けり

野やし　面色とものに　天雲面色にさ出月夜

ましてみえて　それとて言しともり

みえき母の男をさしとたつすんぞて波のとらて

けり　舟肩を立見へし

いさまりし　ひそく神さい　む上臈くけ勝の池

さおいたうちそ（の）かや　大内紀にき帰とのまし

このりのつこりけれ　三月し

けれ山さまり行きさき　きき舟の人に染て鑁姫へる母

のなひしし　五月ずのえしもして不忍絶ヶと

まりしいこうすわれんきさるとひしし

ちかこり　ええ舟のり

ありるまたしと出てさき行ふ

　　　　　　　　　舟居の鰈や

ハありるまたしと於ひしそて

ええうす人と　舟魚子さしええうすすの流さし

ゆうすうれりまそ　中見てそそろ池

ええてそりくにろくし　葉に母二文にそりりうたてい

それに他人のすの世に行さとも

て房をのれを行し　母の剣し

舟居のうえてし　年月のんのいかりてれ色こくりいり

くなし　いて後の高私としけとえしいきやえん

いうしうう人ならう

あそしにまてみ立すれしうえと　気

えきさ舟の河し母のうえ人をりくえきとし

文夜の世のみくみりしいみりりまと

　　　　　　　　　　文の也ま下

見るもすまじけれハ　廿三夜の名月まちにすらりれ
ゆゑんハ俳諧の花ちりぬ中と数てとい
ゆくの笑ふるぬす志いそ之と以て公生達
しこまてを懐さけし　かゝる子とも行りのすし
やがてく
行方ものうし　備る未及行
謝いかゝと都やしきゝしと文翔俳是いてと
わかれとさとわや笑ひへひり洞し
風ひゝ
のおちく家りて我ゝよ　沙門補のなほい
白の見え　大和能因　沙門補ましゝ　此補ハ業のとめ伊信
山にかり

まゝにさそふ风あの文
つかれの文生文是家のや　先備もゝきとやかしゝき
我ちえん之客ゝちくとゝろのや
在馬業文ハ剣我かしゝ　おや備る益ちゝへし
文御かゝと
中ゑより
門記ハよ今之れ
実ゝハ之所し　之行海
なゝしかれ
さ之の流りしり　冬かゝり土佐之
ゆひハそしり　業ゝ行海書国之津子之
なゝハ実て流ゝしゝれくまり順く
おゝしゝゆりゆゑ　冬かゝりのくゝこ

さてしとおかせと
ありさま如何にあはれし　ちきりのほとかきとも
おもひしるを　ともかくもの心
尽ゝをみ思ひしへ〱すいそうそ　かたへ身としるて
うきすてのきこしいふしなるらにたまぬすれいにて
ゆかしきへとこ
一兼好法師とし〱二三人　白居九宮きし〱今一兼文、
とてそ有て文つきをさらひやうさ母きとりお
乙とと
あの子家のやうまて　あのゝ家の家司し
清こゆる時と　清こゆる家の心はそ〱しわを
それうをとさまて

そすゝし家人まりを思ひ
おりきいうさへ色し　いきをおはす如は
右をうけの花ひうられ　右を右僧とつき花ら
しときのすちかし
おそしつきれ　よてハトいろいろいりとこ
されわすれすも行くて　山ゆうえしくれ丈帝女親せうし
いうつて御ひとうしすひ みさをそ見国の帝と出
右僧母の前并と今のまつもさちりれさうし
うきらしとしの生まて　ねのおもとてさとつさろとし
しりて他国ようし右を行くのめでまより
まそ母のたいしきとれ　右を行くののすし
またいく今し慈あきる　うきの母の慈れあそとき

右かけ玉と釈教や　又右かけ玉の花のとのもと
三運あれは
宵ひとりよりて　待経の絅と
うきわりとてりの　間さへ　ゑへとすきの宿かや
一言内含人とくくさきの思ひ夢銅丁り宿し
こと葉の恋しはえきれて　白文の行と云
なのときてくく　われのり
御しとも　新井　及行
むすび哉之けりは　右と忘草と於えてもなし
思ひいれとひらし女のやと
古き草そえし　川玄及行
男とかくるなし　桃葉子の再わし地し男代

若見しりとし一万年千二て行り
人もへすり御月あれ　山門ときの一とけり事に感
おちき　ほし　於やしつりし
とひろつきすて　とえりし事之うきさ中ニ
てそうら絹しろくはくしとえて事と
於らひくら絹とし男代之と思ふまし
やそさう中いつひ　白文の字之山之絹之と云絹之
五夜して　きくき以と
歌の草名さきとき　来まとかやすらり
たいふ於りまちて花の　おの於るのことさとて義けり
きとひくらこえてうら
み宮ひろとかくさく　宮おさるそれは優すくてさし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
湯焙ものなり　蜻蛉　青蛉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中元のうた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月なれはけふはかりまつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中文のれうし

大文　中文し

小字れうし　大門ようしてさしてのり羽し

人ようしいりをかて　意の小字れし　いりをかてし

白文のかきりうし

ようしをこうてをうけうく

方ようしこれかをうと　うん小字れうをしいうし

ようしをかり

中文り

白文り

中文のうし

意をかく　中文

白文

ようしをかく

小字れうりをしうだを

小字れうりをしうだを

ようしをかく

ようしをかく

ようしをかく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

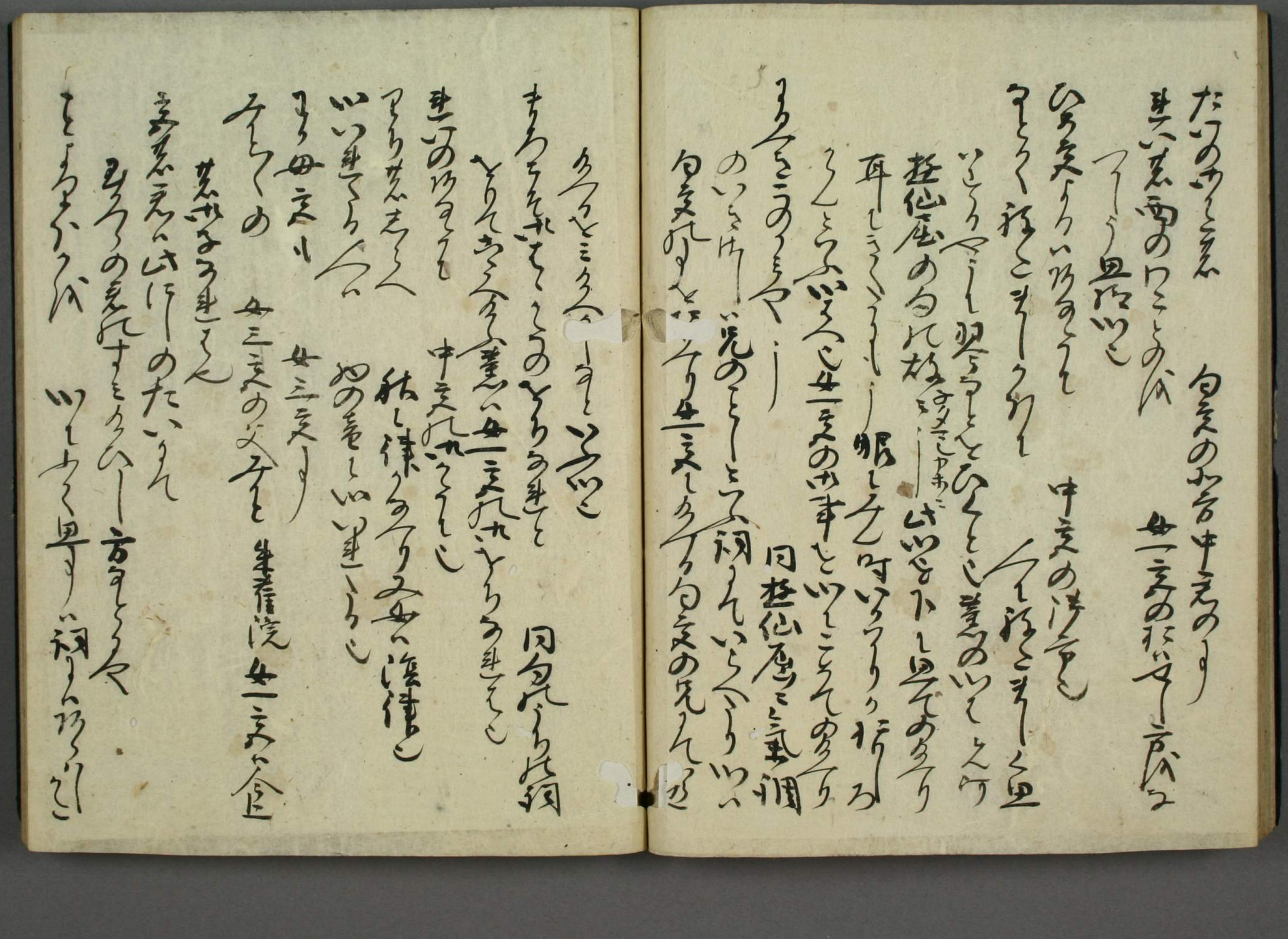
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹之義[illegible]

[illegible]八月十五夜天しの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大文字　中文字

[illegible]

白文字

中文字の白文字

[illegible]

中堂

[illegible]

私選才十六満　女仁寡　帰賦　題

雪七十七歳

[illegible]

私

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃の国すはの社

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文明第八仲夏初九又服畢

後同年七月中旬迄十月上旬見合物語事　宵柏

同九年二月重加点之　秘方合点略之

追閲之初閲し後十四年

長享三季春中、於種玉堂慶之説合点

一答ハ文明第九宗祇法師不審閲　題後成恩寺

禅閲答也　宵柏写ル

一勘ハ文明十三庚子季春宵柏尋中　祥閲余ハ

以彼自業之注付勘載合点ハ　桐壺至若

業下其外細注閲題ハ也

以上両閲答花写未遂一校之前ハ仍抄出不審者也

秘令両写之有件両閲答并迄而閲之ハ悉一所

写載之童雅し不案并童説ハ雅無益先

但ハ写余之者也

右宵柏老人閲之借待し宵六月之筆建之

慈性八月十七日終其ハ功七冊調し静加一見ニ

清之抄出し　永正七年記し

女房装束抄

書のハ　ちちさ

ひさ　ひさ　一丈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六尺五寸

二尺五寸

四尺三寸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹寿花全部者一花堂宗河老く業跡を
老宿ハりて西ヶ原右相府三條大道称院
尊所ニ仕物語傳文せりしを年ハ
また浪華ゆきて方人の薄遊小寿丸
道ゆきて人の五倫と自ら七ヶ名言
く重井ゆきて中ゆくありけるを
浪陽城崎の人々勅とうけ安ひつ
河寿丸の席ニ使はるゝ家門を

[illegible]
門徒之老衰[illegible]
[illegible]歌七一[illegible]
[illegible]

寛永四中丑年仲月日

遊行[illegible]